

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームわかば
(ユニット名)	か
所在地 (県・市町村名)	長崎県佐世保市
記入者名 (管理者)	堤 倫子
記入日	平成 21年 1月 19日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念はある。前回の外部評価で見直しては？という話になったが、見直しには至っていない。	<input type="radio"/> 開設前の理念であり、開設して5年が経過しようとしており、事業所の状況や地域密着型サービスとしての役割を目指した内容を加えるなど理念を考え直してもよいのかもしれないと思っはいるが、実際に考え出すと非常に難しい。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	名札の裏に理念を書いたメモを入れており、それぞれに確認し意識して日々の仕事に活かすようにしているが全職員に共通して浸透しているかは曖昧。	<input type="radio"/> GH理念の他にも、法人全体の理念もあってサービスマインドという面では共通している。もっと職員会議などで理念の共有、実践にむけての意識統一、勉強など行っていきたい。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ホーム内に見やすいよう掲示しており、見学や入居の際には詳しく説明するようにしている。	<input type="radio"/> 母体の病院の理念が院内に掲示してあったり、広報誌に載っていたりで地域の方には母体の理念が浸透している。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	病院の中にあるGHということで、少し独特な雰囲気を持たれている様を感じる。どうしても、GHのある5階部分に入院していると思われる方も多いが近所へ買い物に出る際は、制服も着用しているので挨拶をするよう心がけ親近感を持ってもらえるよう努めている。	<input type="radio"/> もっと買い物などに利用者を連れて行きたいが、商店街は交通も多く違法駐車も多い為利用者への安全を確保できないなど難しい面もある。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	GH利用者のレベル低下もあり地元の人々との交流というのは難しくなっているが、そんな中でも商店街の行事には参加させてもらっている。	

グループホームわかば か

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	GH単独ではないが、病院主催で健康教室を開いて健康への関心が高まるよう地域に対して取り組んでいる。もちろんGH職員も健康教室スタッフとして参加している。	○	H20年12月からはわかばガーデンクラブも始まり、健康に関して、まだ関心のない若年層にも、わかば会の活動を知ってもらいよい機会となって、そこから高齢者支援などに発展していけばと思っている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	自己評価を各自で考えたあと全員で話し合い、前回の評価についても職員会議で報告、改善点についてもケアの向上にむけて取り組んでいこうと努力している。	○	前回の自己評価表も外部評価の結果報告書も玄関に掲示して、いつでも見られるようにしている。
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	以前は開催していたが今年度は開催できていない。開催して感じたことは市からも民生委員さんなどに運営会議の目的などについて周知してもらえると良いと感じた。	○	なかなか運営推進会議を上手く利用できないでいる。ほかのGHに見学させてもらうなど運営推進会議の活用を見出したい。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	事業所単独では取り組んでいないが、佐世保市のGH連絡協議会の会員になっており、その代表などが市町村と連携をはかっており、必要なことは連絡網にて情報が伝わるようになっている。		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	研修などには、できる限り参加している。GH内での勉強会も開催しており、その中でも成年後見制度について取り上げたりしている。		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	法人で顧客満足に関する勉強会を開いたり、また佐世保市主催の講演会などにも参加した。		虐待などの記事が掲載された新聞などはコピーして配布したりと、注意を払っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>一方的な説明で終わらないよう時間をかけて注意しながら説明している。利用料金やサービス内容についての説明は契約前から行うこともあり、その点は不安を和らげ、理解、納得されていると思う。</p>	○	<p>時間は設けているが、業務の都合で忙しい時間帯などは十分な説明が出来ない時もあるので不足した分は、電話や、次の相談日を決めたりソーシャルワーカーに依頼したり、と、きちんと伝えるようにしている。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>機会は設けてないが意見箱を設置している。また口頭でも受ける体制はとっており、それらの意見は運営者に報告し解決策をとるようにしている。また日々の生活の中からの会話や姿勢など不満を汲み取るように努めている。</p>	○	<p>介護記録とは別に、ささいな事、かんじた事を書くノートを作っており、それを職員間の情報交換として日々のケアに活かしている。前回、アドバイス頂いた外部窓口の設置には至っていない。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会の際、暮らしぶりや健康状態を話し、金銭管理については、御小遣い帳を見ていただいたりしている。</p>		<p>今、入所されている利用者は定期的な面会があるが今後、面会の少ない利用者があれば家族へ手紙を送る事なども検討して実施していきたいと思う。病院のホームページも活用できるとよいと思う。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を設置しており何か意見があれば、いつでも受け付ける体制を作っている。</p>	○	<p>家族の方とは、よくコミュニケーションがとれていると思うので、なかなか口に出出来ない事もあるかもしれない。だから外部窓口の設置を検討するべきだと思っている。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>運営者とは連絡すればいつでも話せるような体制にはなっていないが必要最小限で充分とはいえない。管理者とはいつでも意見交換できる体制がある。また月1回のミーティングを開催し意見交換している。</p>	○	<p>十分な時間、機会を作り意見を反映できるようにしたい。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>本人のペースを崩さず心地よく毎日を過ごしてもらえるように起床時、就寝時、入浴時間などを考慮した上で十分なケアが出来るよう勤務時間を設定している。</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>最小限の移動で済むよう配慮している。また移動の際には事前にご家族や利用者に説明している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>事業所全体で教育委員会・C・S顧客満足度の勉強会(週1回)また月1回の日本経営藤沢社長の講義があり自己啓発に取り組んでいる。また事業所外での研修にもなるべく参加させている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>佐世保市グループホーム連絡協議会に入会し情報交換を行っている。またケアマネの研修会にも積極的に参加している。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>個別に相談に応じ大きなストレスにならない内に解決策を共に考えるようにしている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>わかばごころ(理念)の理解の為、全職員に対して共に学ぶ風土を育成している。</p>	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談から利用に至るまでは相談員やGH職員が本人、家族、ケアマネから聞き取りを行っている。そこで得た情報を職員間で共有して最大限、受け止める努力をしている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談を受ける際は、これまでの経緯や現在の状況を、ゆっくりと聞くようにし、ここでは、どのような対応が出来るかを話すようにしている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思い、状況等を確認し対応できるようしているが場合によっては主治医、併設居宅ケアマネ、SWへも相談し、他のサービス利用も含めた対応が出来るようにしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	突然の入所となる場合が多く、急激な環境の変化とならないよう出来る限りの情報収集に努め、利用者には不安を与えないような配慮に心掛けている。	○	併設施設から入所される事が多く利用者に関する情報は得やすいため、介護に困るような事は、あまりないが、入居の予約があった時から、GHに来てもらえるような支援をしていきたい。また、GH予約者にも行事等の参加を呼びかけていくようにしたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の生活歴の中から、その人の得意分野を知り、それを行ってもらえるような場面作りに配慮している。また、日々の会話や作業を一緒に行う中で昔からのやり方や昔話、人生論など本人より学んだり支えあう関係作りに努めている。	○	食事の盛り付けや、行事食作り、計算ドリル、貼り絵、塗り絵など行っている。GH内に色んなGHでの活動の写真を掲示して、それを見ながらの会話も楽しんでいる。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、近況報告を行い、家族からも以前の暮らしぶりなどを聞き情報を交換しながら同じ思いで本人を支えていけるような関係をもちたいと伝えている。また気になっている事も家族に話して、共に考えてもらっている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	生活歴、家族構成など家族との情報交換の中から、これまでの人生や家族関係を出来る限り理解し、双方の思いを受け止めて両者の関係がより良く保てるよう努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域で暮らす馴染みの知人、友人が訪問される事もあるが共に高齢であったりして頻回ではない。居室に自宅周辺、自宅に咲いている花、家族などの写真を貼り、本人が大切にしてきた関係が途切れないよう努めている	○	自宅や本人のふるさと、馴染みの場所など訪問できればよいがGH専用で使える車がなく、気軽に外出する事が難しい。職員が、その場所を訪問してビデオ撮影などして本人に見てもらえるような事をやってみたいと思っている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日々の生活の中で利用者から話しを聞き、相性が悪い方とはトラブルが起きないように配慮している。利用者同士に起こった問題は職員同士で共有し利用者同士の関係が上手くいくよう支援している。	○	共用空間での接し方などに留意して、トラブルになりそうな時は事前に食卓の席替えや、食卓につくタイミングをかえるなどして大きなトラブルにならないよう努めている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用が終了されても、他病院や同法人内の施設へ入院、入居された際には定期的に面会へ行き関係を断ち切らないようにしている。他の事業所へ移られた方への訪問は行っていない。	○	他の事業所へうつられた方についても、今後、様子伺いに行けるように取り組んでいきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所の際、本人にこれからの生活をどうしたいかの希望を聞きとるようにしている。聞き取った内容は介護計画書(1)に記載して、ファイルにはさんで管理し、いつでも見れるよう、また申し送るなどして把握に努めている。	○	普段から思いや暮らし方の希望が利用者の方から聞けるように会話を十分にし情報を得たい。また、聞く事が困難な方についても、本人の立場に立った思いや希望を汲み取るよう心掛けている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所された際に、ご家族に、ご本人のこれまでの生活歴について教えてもらい、カルテに記載して職員全員で把握して、これまでの生活に少しでも沿うようケアを心掛けている。	○	持ち込み物など規制をせず馴染みの暮らし方をしていたできるように努めている。ある利用者は仏壇を、自宅から持ってこれ、毎日お経を唱えられている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	カルテに毎日、一日の過ごし方、バイタルを記載しており、また普段と違った面や有する能力を見出した時には申し送りをしたり現状を把握するように努めている。	○	以前は、一人ひとりについて気づいた事を書く「気づきノート」を作り、こまめに書いていた。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の意見を聞き工夫してより良く暮らしてもらえるよう介護計画を作成している。例えば下肢筋力をUPできるように手作りの道具を作りゲーム感覚で楽しみながら実施できるようなアイデアを用いて利用者様に苦にならないようなケア項目を立てている。	○	利用者一人ひとりに担当の職員をつけ本人や家族の意見、職員の気づき等を反映した介護計画を作成するように努めている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月、6ヶ月毎に評価を行い継続、中止、変更の見直しを行っている。急な体調変化により見直し以前に対応できない変化が生じた場合は状態に応じた介護計画を作成するようにはしている。	○	入院し退院され、以前の比ベレベル低下を認めた場合はアセスメントを取り新たに介護計画を作成している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	熟形表のカルテにサービス内容の項目をつけ、きちんと実行できているか、チェック表をみて、すぐ確認できるようにしている。また気づいた事は記録し目を通すようにしている。	○	申し送りノートや気づきノートにも書くようにしている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	高齢になると筋力の低下が著しくなる傾向が高く通院リハに行くのも大変になるが、病院併設ということで外来リハを利用しやすく筋力低下防止にもつながっていると思う。	○	眼科や歯科なども近隣にあったりする。原則、他科受診の際は家族の付き添いをお願いしているが、家族が遠方であったり、仕事上の都合でやむを得ない場合はスタッフが付き添うようにしている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	敬老会やクリスマス会といった催し物がある際には外部よりボランティアの方々が来てくださり踊ったり歌ったりして頂き利用者様に楽しんでもらえるよう支援している。また、同法人内に今年度より託児所が開設され、一緒に外出したり、GH内に遊びに来てもらったりして交流を図ることにより、心の活力にいただいている。	○	年に1～2回、防災訓練を実施。安全に安心して暮らしていただけるよう訓練に取り組んでいる。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	今のところ、本人の意向に対して他サービスの利用の必要性はないと考えているため、その支援は行っていない。	○	今後、必要性があると判断した際には他のケアマネジャー等と話し合い、他サービス利用の支援を行えるようにしたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	他のサービスの活用支援の項目と同様、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等についての本人の意向、必要性は、現段階ではないように思える。	○	今後、必要性があると感じられることがあれば対応していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当事業所は病院内に併設されており、急変時はもちろん、何か訴えがあれば随時、受診可能な支援を行っており安心して暮らしていただけるように支援している。ほぼ全ての利用者が病院があるからとGHを選ばれ主治医は併設病院医師とされている。	○	体調が悪くなられた際には併設してある病棟へ入院して治療に専念してもらい、よくなられたら再びGHへ戻ってこられるような体制をとっている。

グループホームわかば か

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ひとりひとりの誇りやプライバシーを尊重して、その人その人にあつた言葉かけや対応をしている。	○ 法人全体でもコミュニケーション技術のスキルを学んでいる。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ささいな事でも本人に選んでもらえるように問いかけたり、その人その人の意見や訴えなどを聞き出来る限りの対応に努めている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそつて支援している	日々の業務の流れで利用者を待たせる事もあるが、できる限りその人その人のペースを大切に、個別性のある支援を行っている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	散髪は利用者、家族の方の希望を聞き訪問利用サービスを受けている。時には化粧をしたりと、おしゃれを楽しんでもらう様になっている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食などは、一緒に準備を行っている。また、刺身がきらいな人は煮付けにしたり、好みのものが食べられるよう配慮している。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一緒に買い物に行った際、自分が好きな、おやつ等を買われたりしている。また水分補給には、好みの飲み物を飲水してもらっている。お誕生日にも好きな食べ物を聞きプレゼントしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	ライフチャートを活用して時間帯、量、性状など細めにチェックし、個々に合わせた排泄パターンをつかみトイレ誘導パット併用の工夫を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決めているが入浴するか、しないか、入浴したい時間など、その人の希望にあわせて、入浴してもらっている。入浴拒否があった時も無理強いせず、翌日に入浴を勧めたりしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの体調にあわせて、夜間の睡眠に支障がないように、対応している。個人の状態などを観察しながら休息をすすめたりしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野での力を発揮してもらえるような仕事(洗濯物たたみ、食事の配膳など)を、お願いして感謝の気持ちを伝えるよう心掛けている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭については委任状をもらい管理させてもらっているが、買い物など自由に自分で支払いできるように支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所への買い物などは、利用者と一緒に散歩がてら出掛けたり季節に応じ外出の機会を増やしていけるよう心がけている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族の要望に沿えるよう支援している。外出の際は家族参加も呼びかけている。		認知症も進んだりして行きたい場所を知ることが難しくもなっているが、ささいな事からでも知れるようコミュニケーションを大事にしたい。

グループホームわかば か

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持参されている利用者もいれば、電話をかけたいと訴えある利用者様もいて、その都度対応している。	○	字を書くのが困難な方でも手紙を書きたいと訴えある場合、職員代筆にて手紙を書いたりしていきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族によっては訪問日を決めておられるので、その日は利用者も、ある程度身のまわりの事をすませ、ゆっくり過ごせるよう支援している。また家族、利用者、職員で会話の時間をもてるようお茶をするなど、おもてなしに気を配っている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については職員全員が正しく理解している。	○	玄関には鍵がかかっており、身体拘束をしないケアについては、これから、もっと勉強して取り組んでいかなければと考えている。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	理解はしているが、日中も玄関は施錠している。日中だけでも開錠したいが、日中だからといって、現状の職員数では見守りの強化ができず、利用者の安全確保、家族の心配といった問題をクリアすることは難しい。	○	入居時に、電子錠については説明し理解をしてもらっている。徘徊がある利用者にはGH内を付き添って歩いたりしているが、今後は屋上テラス等に行き気分転換を図るなど行っていきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中、居室内でほとんど過ごされる利用者様もおり、バイタル測定の際、体調の良し悪しの声かけ、表情など観察を行い、所在様子を把握する。夜間帯は巡回を細めに行い、小さい物音でもすぐに対応できるよう気を配っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	物品によって保管場所を考え必要に応じては職員同士、注意を促し利用者の状態にあわせて危険のないように気をつけている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ベッドの高さの調整、配薬は声に出して日付、名前を確認して誤薬を未然に防ぐようにするなど事故防止に努めている。火災を熾さないよう気をつけると共に消防訓練も実施している。	○	事故が起きた場合は、事故報告書を作成し、それについて検討をして今後の予防に努めている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時のマニュアルは把握できており、年に数回、消防からと院内外科のDrより普通救命講習も開かれている。	○	起こりえる事故に対する緊急シミュレーションを定期的に行いたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の人々への働きかけはGH単独では行っていない。災害に対してはマニュアルは作成してあるが、把握して実際に起こった際スムーズに動けるかは自信がない。	○	防災訓練は行っているが院内で行っているの、地域住民の方に参加してもらっての防災訓練を行って、地域の方々との連携を持ちたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	生活の中で、起こりえるリスクについては、ささいな事でも早めに家族へ話すようにしている。それに対応できる事業所の取り組みなどを説明し理解を得るようにしている。	○	リスクマネジメント対策を行い、何事も未然に防ぎたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックはもちろん、コミュニケーションをとる中で、ちょっとした変化も記録し報告しあい、素早い対応に取り組んでいる。	○	定期的な巡回を行い気になる事があれば記録してNS、Drにも速やかに報告している。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬ノートがそれぞれにあり、内容など確認できるようになっているが、個々の服薬内容の把握までの徹底はできていない。	○	個々の服薬内容を一覧表にして職員が把握できるようにしていきたい。また薬の効能、副作用についても勉強していきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	バランスのとれた献立が作成されている。また、飲み物なども牛乳、ココアなど排便効果のあるものを多く取り入れている。オリゴ糖などの甘味も使用。ケアプラン項目にも体を動かす事も立案している。排泄時には腹部マッサージを行っている。	○	内服薬によっては、便秘を引き起こすのもあったりするが、なるべく自然排便できるような活動を取り入れたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	義歯洗浄剤なども使用し利用者のレベルに応じて介助を行っている。	○	口腔ケアを拒否する利用者に対しての促し方など学習して取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による栄養バランスのとれた献立が立てられている。又、職員も入居者の、その日の状態に合わせて形態にして摂取しやすいようにしている。食事量も毎日の記録に残している。	○	糖尿病、減塩食など制限に気をつけて配膳している。ペットボトルにお茶を用意し居室内において、いつでも飲水できるようにしている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	法人全体で週1ペースで教育委員会を開いており、そこで感染症などについて勉強している。また、病院併設ということで、正しい新しい情報が入ってくるため対応がスムーズにできる。	○	食器や衣類など、次亜水消毒をする。インフルエンザや肺炎球菌予防ワクチン接種もすすめている。職員も全員インフルエンザ予防接種を受けている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具などに乾燥機やハイターなどを使った十分な乾燥と除菌に心がけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は明るく、リビングとつながっているため、利用者、職員の顔がすぐに見え安心感につながっている。玄関前にはプライバシーに配慮し同意を得たうえで、利用者の写真をつかった表札を掲示しており、来客の方にもわかりやすくなっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を出す為、花を生けたり、壁面構成を行っている。またオープンキッチンになっており、調理の音、匂いなど生活感を感じることができると思う。	○	クリスマスやお正月の行事など利用者様と一緒に季節感の物を作りリビングや居室に飾っている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳や、ソファを活用して利用者の、その時々々の状態、気持ちにあった過ごし方が出来るよう工夫している。リビングも気のあう利用者同士で活用してもらえよう気をつけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	荷物の持ち込みに制限はしていない。なるべく、馴染みの物、安心できる物を持ってきてもらえるよう話し、可能な限り対応している。	○	室内の環境整備を定期的に行いたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝、起床時に居室など換気を行っている。エアコンの温度調節にも気をつけている。	○	リビングなど多数で過ごす空間での温度調節は個人の体感温度が違う為、調節に苦労するが、衣服の調整も含め対応していきたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー、手すりなど利用者の状態に合わせた造りとなっているが、個人の状態を考えると、もっと配慮しなければならない所があると感じている。	○	日々、検討して利用者の自立、安全が保てる生活にあった、よりよい住環境がつけられるよう用具の検討、補修を行っていききたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室がわからない利用者には、入り口に目印をつけ迷うことなく居室に戻れるようにしたり、入浴日の浴室には暖簾をかけたたりしている。	○	声かけ、見守りを行い混乱のないよう留意している。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	隣接しているテラスがあり、以前は利用者が植木いじりや、花の観賞ができるようにプランターを高い位置においたり、日々の活動に役立てていたが、現在は利用者のレベル低下や、入れ替わりなどで洗濯物干しの場所となっている。	○	病院の6階部分には屋上菜園があり、四季をとおして楽しめるようになっている。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

グループホームわかば か

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・病院の中にあるグループホームということで適切な処置、対応を24時間体制で受けることができ医療面で安心した生活を送ることが出来るとともに看取りまで、お世話
できず
- ・グループホームでも独自のCO2削減目標をたて、法人全体でも「チーム・マイナス6%」に参加している。
- ・経営コンサルタントの講義をうけCS顧客満足度にて接遇向上に取り組んでいる。
- ・新規で入所された方でも不安を取り除き安心した暮らしが送れるようスタッフそれぞれが自分の特技を活かしながら一丸となって対応する能力を持っていると思います。